

2026年3月期第2四半期

決算説明会

2025年11月11日

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

目次

I. サマリー・事業概況	P. 3
II. 2026年3月期第2四半期決算実績	P. 6
III. 2026年3月期通期業績予想	P.14
IV. 中期経営計画に関する取り組み	P.20
Appendix 1. 過去の業績推移	P.32
Appendix 2. 会社概要	P.36
Appendix 3. 当社の強み・ビジネスモデル	P.42

(注)本資料内の下線のある用語は、別紙(用語集)に用語説明を掲載しています

I. サマリー・事業概況

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

I. サマリー

■ 財務サマリー(2026年3月期 第2四半期決算実績、通期業績予想)

第2四半期 実績	受注高	23,644 百万円 (前年同期比 ▲33%)	(前年比-) 前年同期比では減少 受注残高は、引き続き高水準を維持(2025年9月末:91,272百万円)
	売上高	36,123 百万円 (前年同期比 +36%) Q1現在予想:37,500百万円 (予想比:▲1,376百万円)	[予想比-] 一部大型工事案件における進捗の遅れ (前年比+) 受注した大型工事案件の進捗、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与
	営業利益	3,681 百万円 (前年同期比 +65%) Q1現在予想:3,000百万円 (予想比: +681百万円)	[予想比+] 上期に完工した工事案件におけるコスト改善が寄与 (前年比+) 売上高の増加による売上総利益の増加が寄与し前年同期比で増加
期初(2025年5月15日)発表の通期予想を、2025年10月31日に修正			
通期予想	受注高	69,500 百万円 (前期比 +7%) ※業績予想修正無し	[予想 ±0] 報告セグメントごとに修正はあるが、全社数値に修正無し (前期比+) GX事業と船用機械分野を中心に受注拡大、高水準の受注高を見込む
	売上高	88,500 百万円 (前期比 +50%) 修正前:84,500百万円 (修正前比: +4,000百万円)	[予想比+] GX事業をはじめ、各事業において着実に売上を計上 (前期比+) 前期までの大型工事案件の受注、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与
	営業利益	8,550 百万円 (前期比 +50%) 修正前:7,500百万円 (修正前比: +1,050百万円)	[予想比+] 売上高の増加による売上総利益の増加に加え、上期に完工した工事案件におけるコスト改善が寄与 (前期比+) 売上高の増加による売上総利益の増加
	年間配当	86 円/株 (前期比 +16円) 修正前:80円/株 (修正前比: +6円)	[計画比+] 当期純利益予想の増益に伴い増配 (前期比+) 配当性向:35.0%(前期比: +2.3ポイント)

事業概況・売上構成

セグメント別

売上高比率
2025年度(予想)

約50%

エンジニアリング事業

“幅広い分野におけるプラント建設”

- * 産業の基盤となる、化学品、半導体・電子材料、ファインケミカル
- * ライフラインを支える、LNG・都市ガス、石油精製、排水処理
- * 高純度・高効率の水素製造ノウハウ



トップシェア



売上高比率
2025年度(予想)

約25%

単体機械事業

“分離技術を中心に
多様な製品をラインナップ”

- * トップシェアを誇る船舶用油清浄機(SJシリーズ)
- * 様々な顧客ニーズに対応する遠心分離機、ろ過機、攪拌機



トップシェア



売上高比率
2025年度(予想)

約25%

GX事業

“2050経営ビジョンの実現に向け新設”

- * 循環型社会推進事業：バイオガスなど
- * クリーンエネルギー事業：水素利活用など
- * 省力・省エネ事業
- * 次世代技術開発事業



2050年に想定される
社会課題

Appendix 2050経営ビジョン参照

地域別

- 1970年代以降、顧客企業の海外進出に伴い、東南アジアを中心にプラント建設の実績を蓄積
- 海外売上比率は、海外大型工事の受注金額に応じて10～30%前後で推移

売上構成比

その他
約5%

アジア
約10%

日本
約85%

Ⅱ. 2026年3月期第2四半期決算実績

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

連結損益計算書

- 売上高は 35.7%増： 前期までに受注した大型工事案件の順調な進捗、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与
- 営業利益は 65.4%増： 販管費が増加(後述)したが、売上高の増加による売上総利益の増加が寄与

(単位:百万円)

	2025年3月期Q2 (2024年度Q2)		2026年3月期Q2 (2025年度Q2)					
	実績	売上比	※2025年7月予想		実績	売上比	前年同期比	
			予想	売上比			増減額	増減率
売上高	26,623	—	37,500	—	36,123	—	+9,500	+35.7%
売上原価	20,843	78.3%	30,400	+81.1%	28,268	78.3%	+7,425	+35.6%
販売費及び一般管理費	3,553	13.3%	4,100	+10.9%	4,173	11.6%	+619	+17.4%
営業利益	2,226	8.4%	3,000	8.0%	3,681	10.2%	+1,455	+65.4%
経常利益	2,168	8.1%	3,100	8.3%	3,864	10.7%	+1,695	+78.2%
親会社株主に帰属する中間純利益	1,440	5.4%	2,150	5.7%	2,679	7.4%	+1,238	+86.0%
1株当たり中間純利益(単位:円)	63.12	—	94.39	—	117.64	—	+54.52	—

*当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。このため、前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり当期純利益を算定しております。

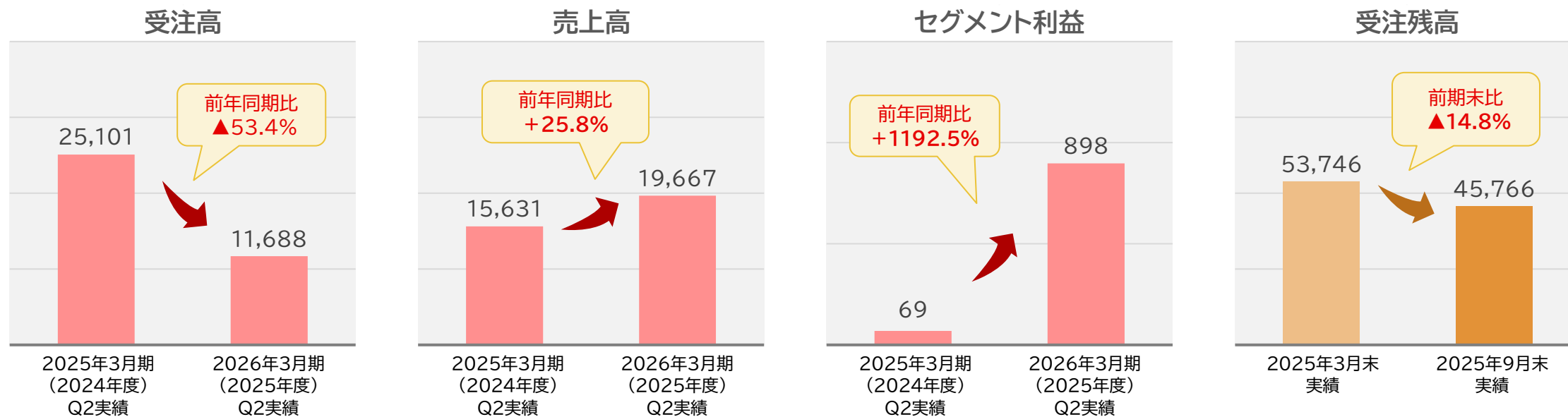
*前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2025年3月期第2四半期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の数値を記載しております。

セグメント別の状況① エンジニアリング事業

決算実績のポイント

受注高	> 大型案件の受注が無く前年同期比で減少したが、概ね計画どおり推移
売上高	> 前期までの受注残高(主に国内ケミカルプラント、下水処理設備)が売上に寄与し、前年同期比で増加
セグメント利益	> 売上高の増加に伴う売上総利益の増加に加え、上期に完工した工事案件におけるコスト改善が寄与し、前年同期比で増加

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

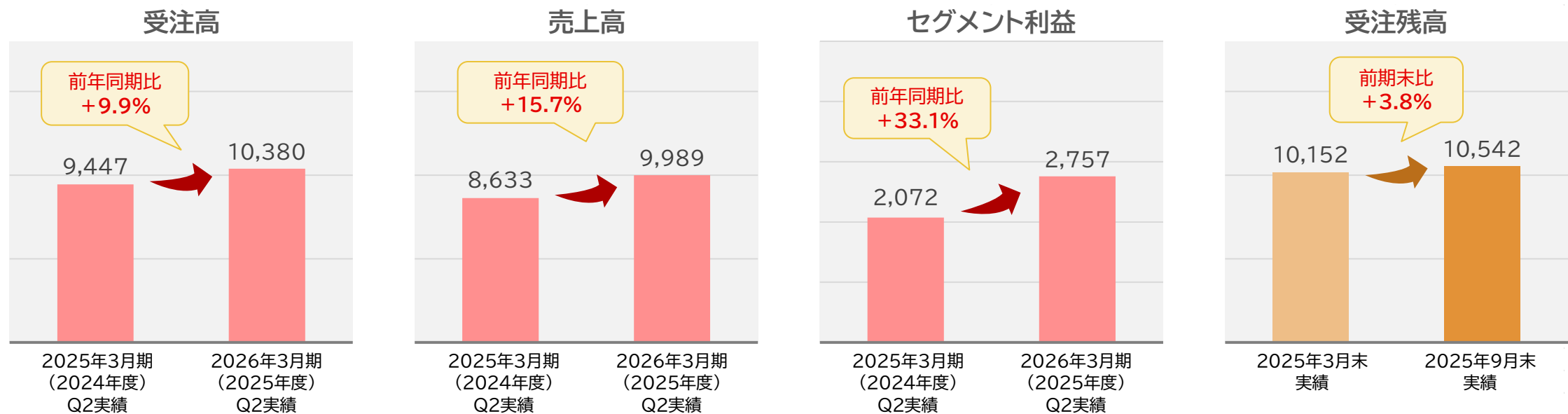


セグメント別の状況② 単体機械事業

決算実績のポイント

受注高	> 好調な造船・海運市況に支えられ、 <u>油清浄機</u> の本体および部品、 <u>船舶環境規制対応機器</u> の受注が前期に引き続き増加
売上高	> <u>油清浄機</u> の本体および部品、 <u>船舶環境規制対応機器</u> の受注が寄与し、前年同期比で増加
セグメント利益	> 売上高の増加による売上総利益の増加に加え、利益率の高いアフターサービス部品・工事の売上高が増加し、前年同期比で増益

セグメント別業績推移 (単位:百万円)

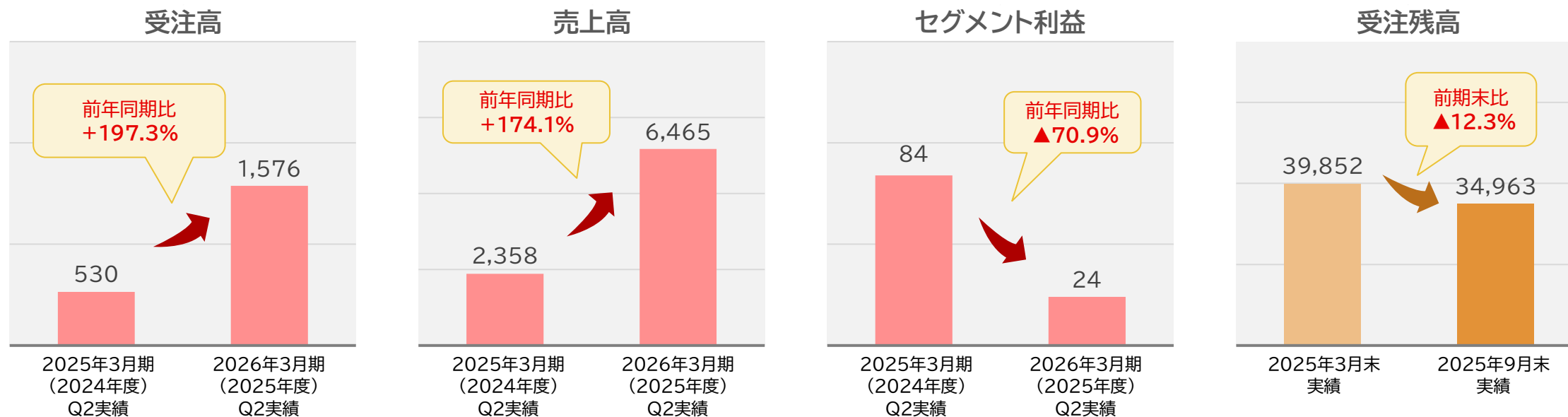


セグメント別の状況③ GX事業

決算実績のポイント

受注高	> 概ね計画どおり推移
売上高	> 前期までの受注残高(主に水素製造設備)が売上に寄与し、前年同期比で増加
セグメント利益	> 売上高の増加により売上総利益は増加したが、研究開発費をはじめとした販管費が増加し、前年同期比で減少 > 第1四半期は赤字であったが、第2四半期実績は黒字化

セグメント別業績推移 (単位:百万円)



主な販売管理費

- 金額ベースでは 17.4%増: 見積設計費は減少したが、給与・賞与(人件費)の他、研究開発費、広告宣伝費および販売手数料が増加
- 売上高比率では 1.7ポイント低下: 売上高の増加により、売上高販管費率は 13.3% から 11.6% に低下

(単位:百万円)

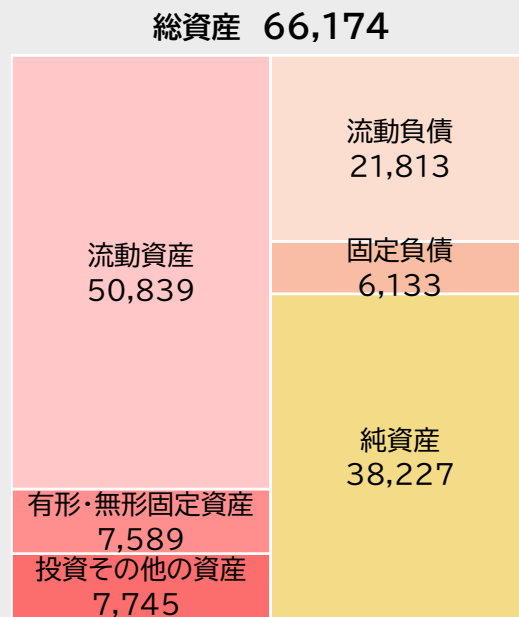
	2025年3月期Q2 (2024年度Q2)		2026年3月期Q2 (2025年度Q2)			
	実績	売上比	実績	売上比	前年同期比	
					増減額	増減率
給与・賞与	1,264	4.7%	1,476	4.1%	+212	+16.8%
見積設計費	421	1.6%	395	1.1%	▲26	▲6.3%
研究開発費	200	0.8%	323	0.9%	+122	+61.0%
広告宣伝費	67	0.3%	191	0.5%	+124	+183.8%
販売手数料	129	0.5%	166	0.5%	+37	+28.6%
減価償却費	122	0.5%	125	0.3%	+2	+2.3%
その他	1,346	5.1%	1,493	4.1%	+147	+10.9%
合計	3,553	13.3%	4,173	11.6%	+619	+17.4%

連結貸借対照表

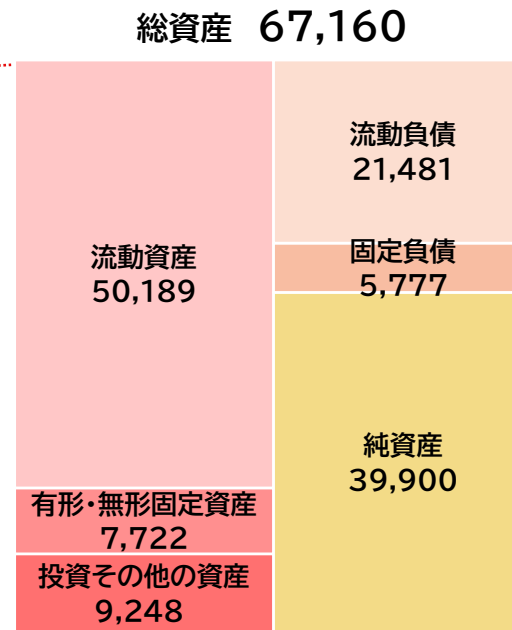
- 総資産は微増： 売掛債権等の回収が進み減少した一方、現金及び預金等が増加
- 負債は微減： 買掛債務等が増加したが、契約負債等が減少
- 自己資本比率は上昇： 純資産の増加により前期末より上昇し、59.4%（前期末は57.8%）

（単位：百万円）

2025年3月末



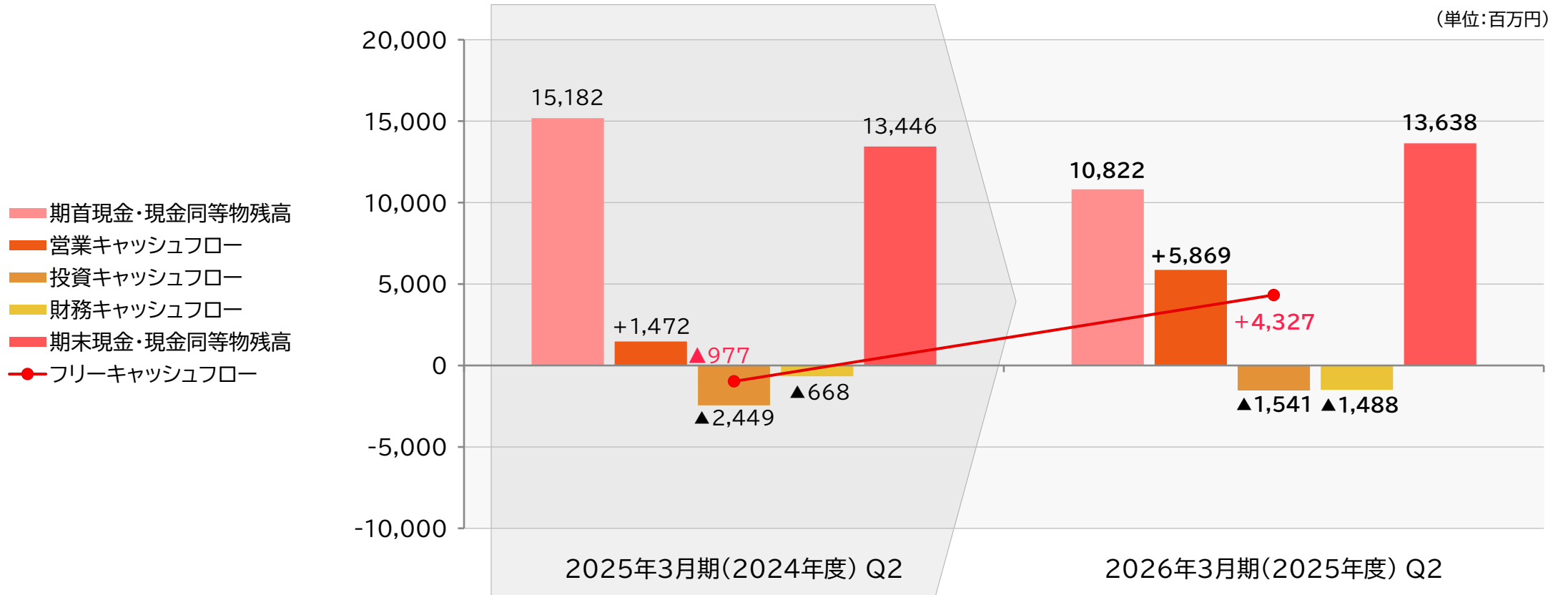
2025年9月末



前 期 末 比	
流動資産	▲649
現金・預金	+2,815
売掛債権	▲4,810
有形・無形固定資産	+132
有形固定資産	+213
無形固定資産	▲80
投資その他の資産	+1,502
流動負債	▲332
支払手形及び買掛金	+917
電子記録債務	▲278
1年内返済予定長期借入金	+500
契約負債	▲694
賞与引当金	▲261
固定負債	▲356
長期借入金	▲500
純資産	+1,673
利益剰余金	+1,381

連結キャッシュ・フロー計算書

- 営業CFはプラス： 増益に加え売掛債権の回収が進み、前年同期比改善
- 投資CFはマイナス： 固定資産の取得、投資有価証券の取得等に使用
- フリーCFはプラス： 営業キャッシュ・フローの改善によりプラス



Ⅲ. 2026年3月期通期業績予想

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

連結業績予想

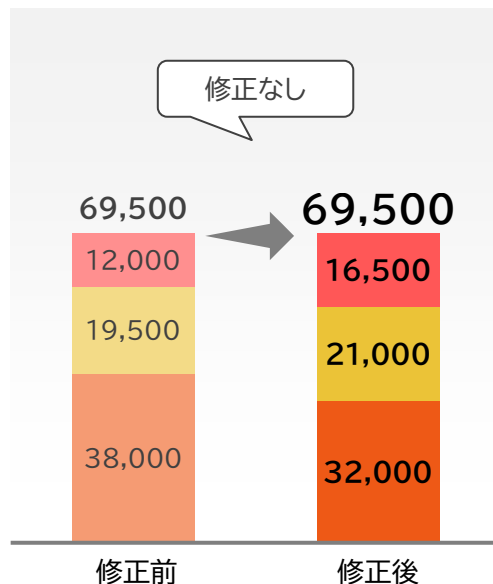
- 売上高は 49.5%増: 高水準の受注残高、船舶向け機器・部品の好調な販売が寄与する見込み
- 営業利益は 50.1%増: 売上高の増加による売上総利益の増加が寄与
- 当期純利益は 19.9%増: 前期計上した特別利益の減少により、営業利益の増加率に比して低位となる見込み

(単位:百万円)

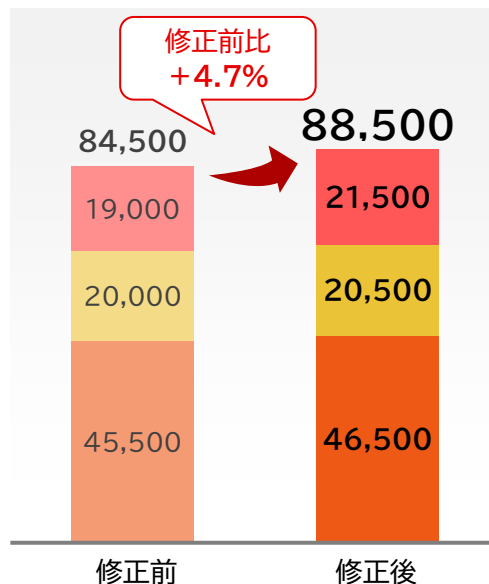
業績予想修正：有り (次頁にセグメント別に記載)	2025年3月期 (2024年度)		2026年3月期 (2025年度) ※2025年10月予想					
	実績	売上比	上期実績	売上比	通期予想	売上比	前 期 比	
							増減額	増減率
売上高	59,202	—	36,123	—	88,500	—	+29,297	+49.5%
売上原価	45,995	77.7%	28,268	78.3%	71,000	80.2%	+25,004	+54.4%
販売費及び一般管理費	7,511	12.7%	4,173	11.6%	8,950	10.1%	+1,438	+19.1%
営業利益	5,694	9.6%	3,681	10.2%	8,550	9.7%	+2,855	+50.1%
経常利益	5,626	9.5%	3,864	10.7%	8,650	9.8%	+3,023	+53.7%
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益	4,879	8.2%	2,679	7.4%	5,850	6.6%	+970	+19.9%
1株当たり当期純利益 (単位：円)	213.79	—	117.64	—	256.85	—	+43.06	+20.1%

通期業績予想の修正

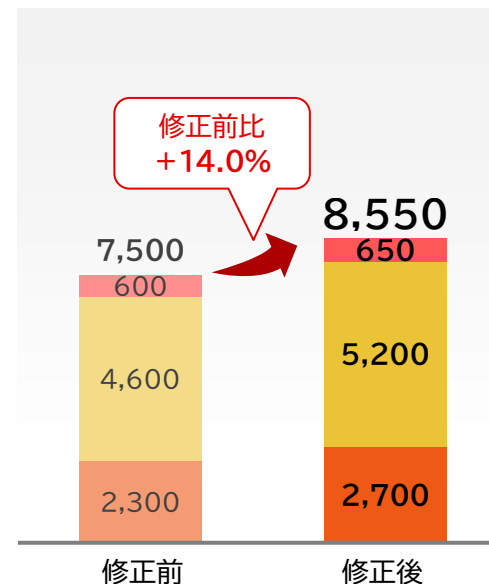
受注高(百万円)



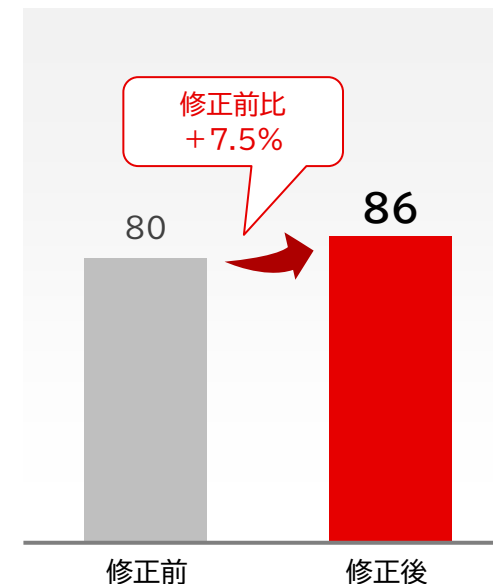
売上高(百万円)



営業利益(百万円)



配当金(円)



エンジニアリング事業 単体機械事業 GX事業

1株当たり年間配当金

- エンジニアリング事業では顧客の投資判断の遅れ・見直しが一部案件に影響し、減少の見込み
- GX事業では水素利活用、バイオガス案件等、単体機械事業では船用分野などで受注拡大を見込む
- 以上の結果、受注高予想は総額として修正無し

- エンジニアリング事業、GX事業は、前期までの受注残高を着実に売上計上する見込み
- 単体機械事業は、好調な造船・海運市況に支えられ、油清浄機、船舶環境規制対応機器のビジネスが引き続き拡大

- 各事業において、売上高の増加による売上総利益の増加が寄与
- エンジニアリング事業は、上期に完工した工事案件におけるコスト改善が寄与
- 単体機械事業は、アフターサービス、船舶環境規制対応機器が好調

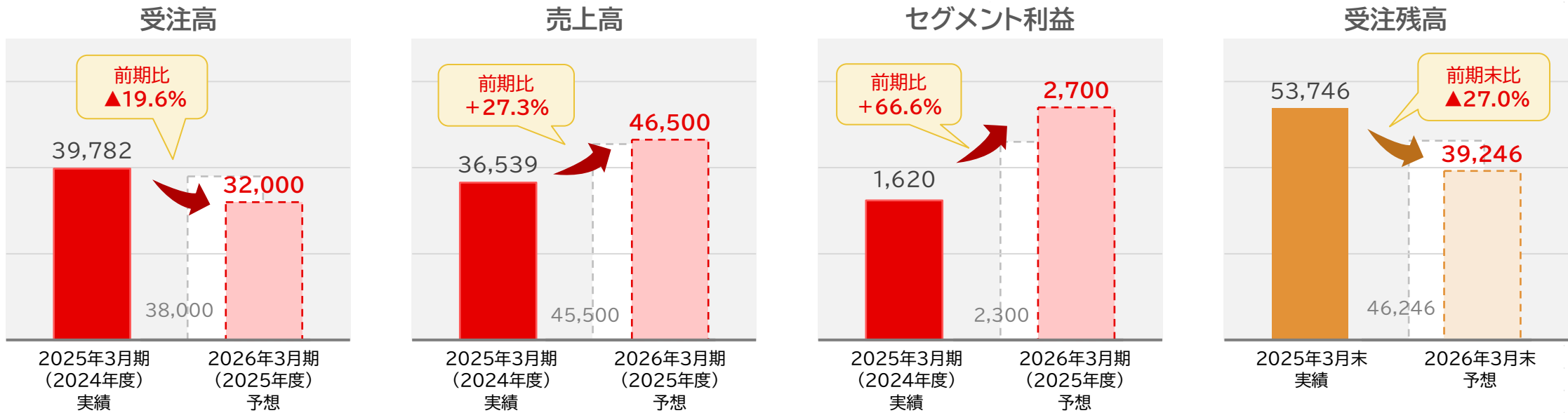
- 当期純利益予想の増益に伴い増配
- 配当性向は35.0% (中期経営計画の株主還元方針)

セグメント別業績予想① エンジニアリング事業

業績予想のポイント

受注高	> 顧客の投資判断の遅れ・見直しが一部案件に影響し、計画比減少の予想
売上高	> 前期までの受注残高が寄与し、増加を見込む
セグメント利益	> 売上高の増加に伴う売上総利益の増加により、増益を見込む
	> 上期に完工した工事案件におけるコスト改善が寄与

セグメント別業績予想 (単位:百万円)

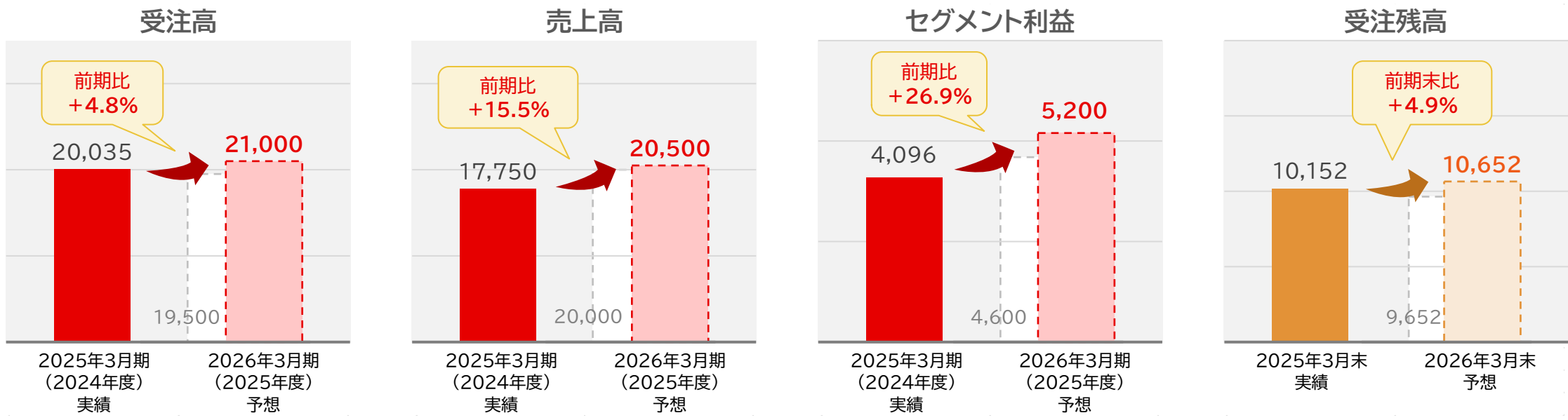


セグメント別業績予想② 単体機械事業

業績予想のポイント

受注高	> 前期に引き続き、好調な造船・海運市況に支えられ高水準の受注高を維持
売上高	> 油清浄機の本体および部品、船舶環境規制対応機器の受注が寄与し、増加を見込む
セグメント利益	> 売上高の増加に伴う売上総利益の増加により、増益を見込む > 好調なアフターサービスが原価率の改善に寄与

セグメント別業績予想 (単位:百万円)

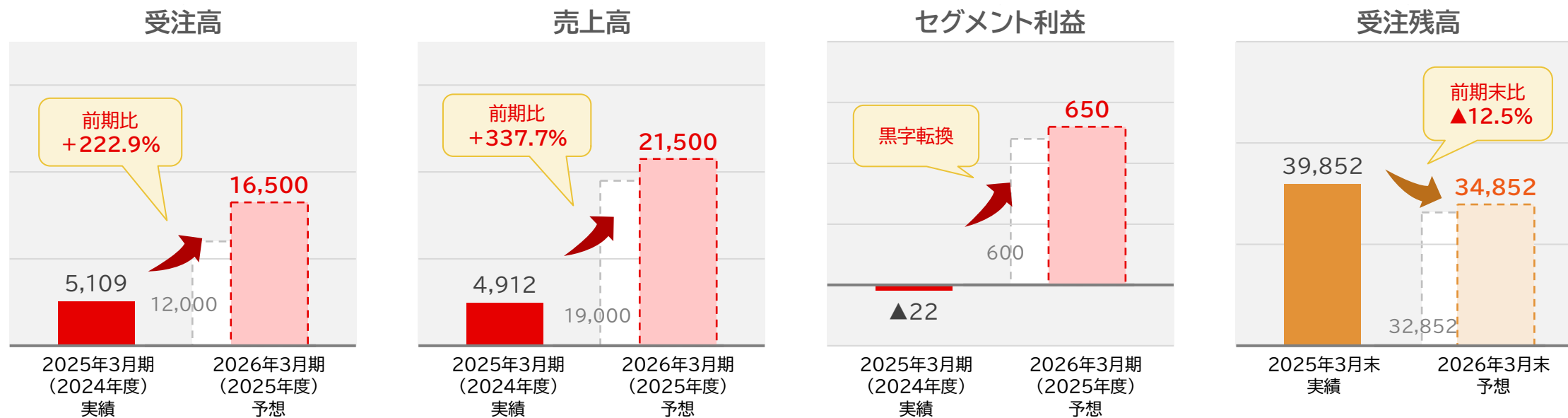


セグメント別業績予想③ GX事業

業績予想のポイント

受注高	> 水素利活用やバイオガス案件等で受注拡大を見込む
売上高	> 前期までの受注残高が寄与し、大幅な増加を見込む
セグメント利益	> 売上高の増加に伴う売上総利益の増加により、増益を見込む

セグメント別業績予想 (単位:百万円)



IV. 中期経営計画に関する取り組み

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

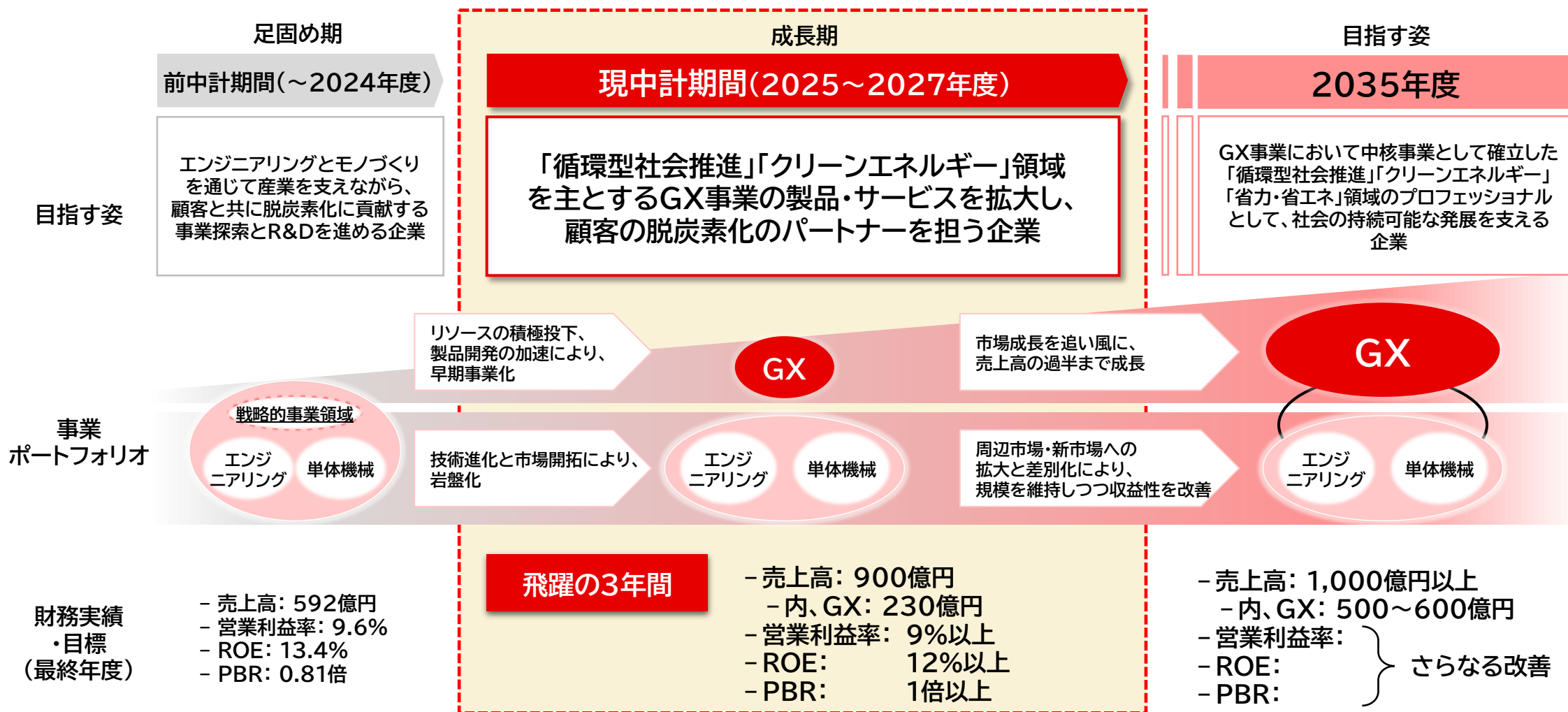
MKK



三菱化工機グループの
現中期経営計画はこちら
(PDFファイルが開きます)

現中計の位置づけ

- GX事業の成長と売上拡大を図る、経営ビジョンの実現に向けた「飛躍の3年間」と位置づける

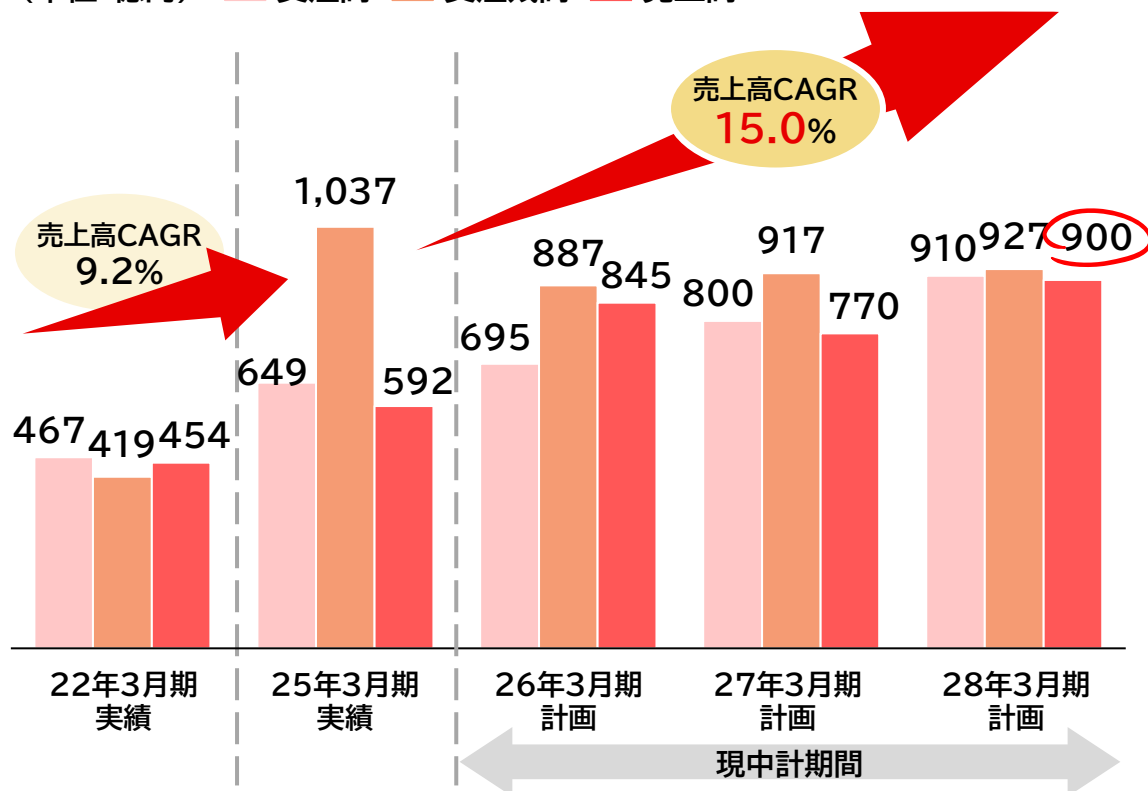


現中計の数値計画

- 前中計最終期の受注残高をもとに、2026年3月期に売上高800億円超へ伸ばしたうえで、2028年3月期には売上高900億円、営業利益率9%以上、ROE12%以上を目指す

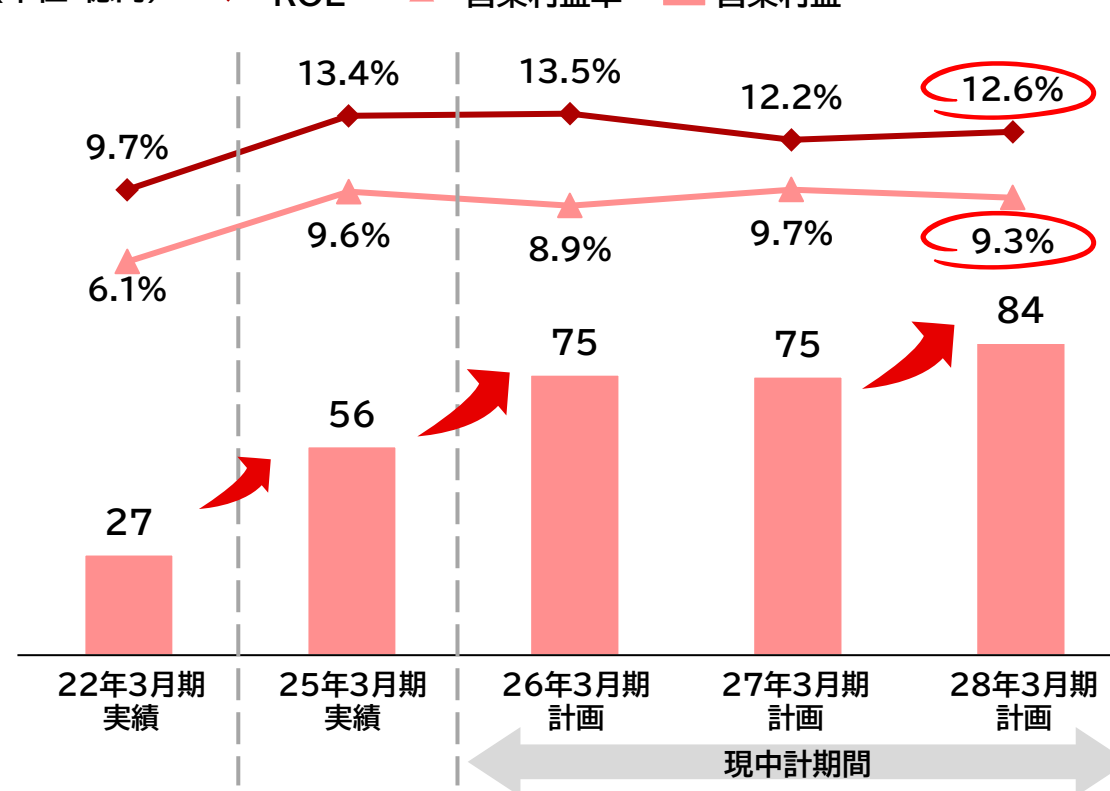
現中計期間での事業規模の目標値

(単位:億円) ■ 受注高 ■ 受注残高 ■ 売上高



現中計期間での収益性指標の目標値

(単位:億円) ◆ ROE ▲ 営業利益率 ■ 営業利益



現中計期間では、前中計期間より売上成長のペースが加速、利益率もさらなる改善を狙う

現中計の骨子・主要施策

- 事業ポートフォリオの進化と、資本コスト・株価を意識した経営の確立を実現し、また、それを支える持続可能な経営基盤の強化を図る

目標

「循環型社会推進」「クリーンエネルギー」領域を主とするGX事業の製品・サービスを拡大し、顧客の脱炭素化のパートナーを担う企業

売上高900億円、営業利益率9%以上
PBR1倍以上、ROE12%以上
を達成

事業・財務戦略

骨子①

事業ポートフォリオの進化

- GX事業の確立
- 基盤事業の競争力強化
- 事業拡大戦略の実践

骨子②

資本コスト・株価を意識した経営の確立

- 成長投資の実行
- 資本効率の向上
- 株主還元の強化 / 成長期待を高める情報発信

経営基盤の強化

骨子③

人的資本・技術資本の強化

- 人的資本戦略の推進
- モノづくり戦略の実践

骨子④

経営ガバナンスの透明性向上

- 事業ポートフォリオ管理 / ROIC経営の浸透
- サステナビリティの推進

世界最大規模の微細藻類生産施設向けに抽出設備一式を受注



抽出・分離試験用設備一式を受注



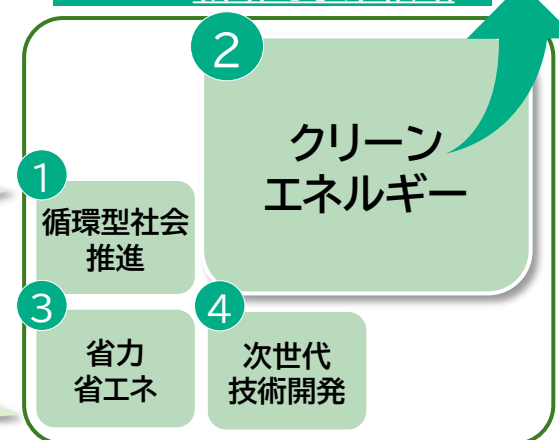
提供元: ちとせ研究所 / NEDO (国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構) の施設

サステナブルな社会づくりへの貢献

当社で長年取り組んできた
藻類の培養 / 分離 / 抽出技術
の開発を継続



4つの戦略的事業領域



SJシリーズの活躍分野

SAF製造

GX



技術

廃食油を原料としたSAF(持続可能な航空燃料)を製造するための、**不純物の分離**

【事例】

国内初となるSAF大規模生産の実証事業向けに納入
(生産量:3万キロリットル/年)

微細藻類の濃縮

GX

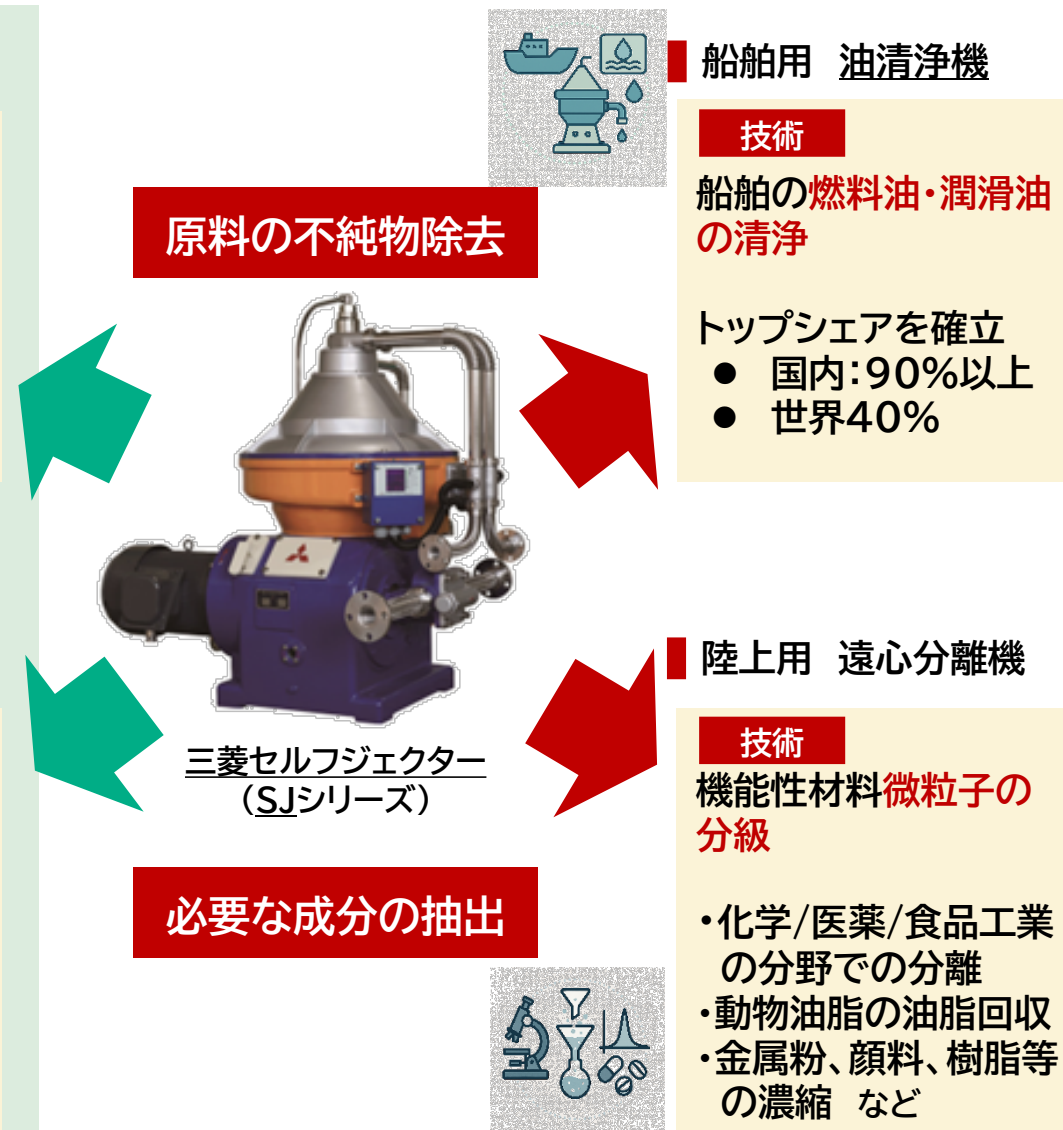


技術

微細藻類を利活用*するための処理として、培養液中に漂う**微細藻類を濃縮**

当社では、微細藻類の培養・成分抽出の技術も開発・実証中

*CO₂を吸収して成長する微細藻類から抽出できる油脂は、化石燃料にかわる新たな**バイオマス資源**として、産業利用が期待されている



事業トピックス

□ 基盤事業の競争力強化

トピックス

主な実績・取り組み状況

主な報告セグメント

■ 水素製造装置



小型オンサイト水素製造装置「HyGeia-A」

□ 小型オンサイト水素製造装置「HyGeia」シリーズの出荷実績は堅調に推移

➤ 半導体、電子材料、カーボンニュートラル向けが中心

HyGeiaシリーズの出荷基数推移

23年3月期	24年3月期	25年3月期	26年3月期(見込み)
2 基	6 基	11 基	4 基

- GX事業
- エンジニアリング事業

■ 油清浄機



三菱セルフジェクター(SJ)シリーズ

□ 受注が好調

➤ 脱炭素に向けた船舶の減速運航による船舶需要、LNGやメタノールと重油を燃料とする二元燃料焚き船舶需要を背景とした、新造船需要の高まり

□ 中長期的にも、燃料油処理用途の油清浄機需要は継続する見通し

➤ 脱炭素燃料(アンモニア・水素等)対応エンジンの普及に向けた動きは一部みられるが、当面は二元燃料焚きエンジンが主流となり、燃料油処理の需要も継続する見通し

□ 国内トップシェアを堅持しつつ、中国シェア拡大を目指す

□ 三菱油清浄機生産12万台記念式典を開催



- GX事業
- 単体機械事業

MKK PROJECT by 三菱化工機 の発足

□ 事業拡大戦略の実践

地域循環型エネルギーシステムの
技術供給の課題

コスト面

人的リソース
の不足

課題1

課題2

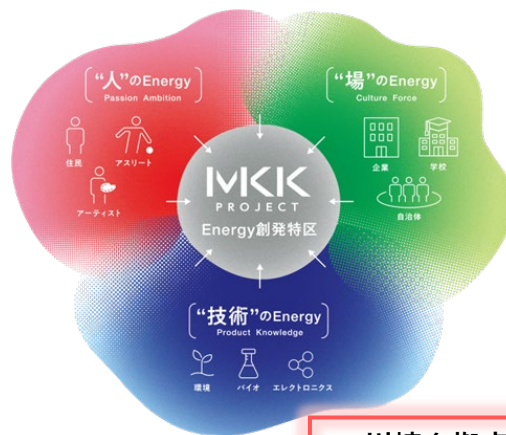
個社での取り組みには限界がある
プロダクトアウトが先行して、需要創出が伴っていない
(事業収益性が低い)

MKK PROJECT by 三菱化工機

解決策

課題1 ⇒ 川崎市・地元企業・地域住
民らと連携

課題2 ⇒ マーケットインの発想を
取り入れ、「ビジネスデザイ
ン」の考えに基づき、
技術開発・市場開拓を進める



発足
(2025年7月)



川崎を拠点に
新たなビジネス
モデルを創出し、
世界ブランドへと
昇華

事例1



* 調理機器の燃料に水素を
活用し、CO₂排出量を低減

脱炭素化への市民の理解獲得

クリーンエネルギーとしての水
素活用を食を通して体験
⇒ 脱炭素化を身近なユースケー
スからPR

事例2



DeNAの新アリーナプロ
ジェクトにおいて、**クリーン
エネルギー技術**の導入を
目指す

MKK PROJECT HPリンク: <https://www.kakoki.co.jp/mkcpj/>

株主還元、株式分割

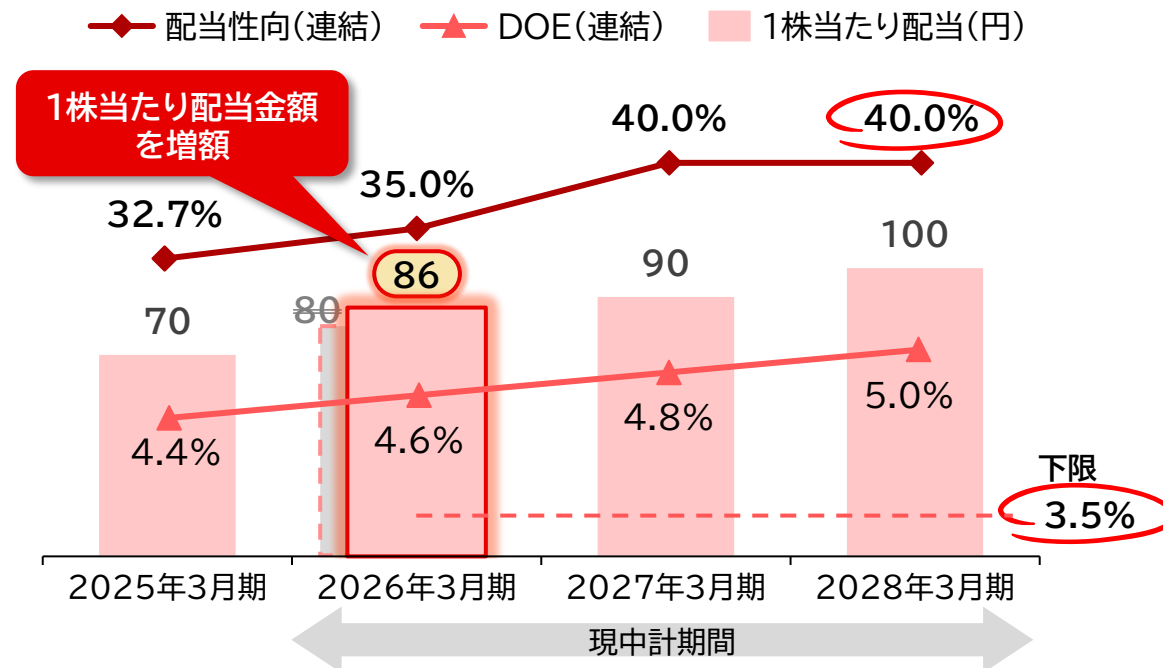
□ 株主還元の強化 / 成長期待を高める情報発信

■ 株主還元の強化

□ 業績予想修正に伴い、2026年3月期の増配を決定

- 親会社株主に帰属する当期純利益の上方修正を見込む
- 中期経営計画の資本政策(株主還元方針)に従い、下表のとおり、2026年3月期配当において増配を決定

【修正前】 中間配当: 40円 + 期末配当: 40円 = 年間配当: 80円

【修正後】 中間配当: 40円 + 期末配当: 46円 = **年間配当: 86円**

■ 株式分割の実施

□ 実施目的: 株式流動性の向上

- 最低購入金額の引き下げ、流通株式数の増加により、株式流動性の向上を図る
- 証券取引所の投資単位引き下げ要請の趣旨を尊重

株式分割の実施概要

分割比率

1 対 3

効力発生日

2025年4月1日

(分割基準日: 2025年3月31日)

成長期待を高める情報発信

□ 株主還元の強化 / 成長期待を高める情報発信

- 個人投資家向け認知獲得に向け、IRフェアに初出展
- 事業理解の促進を目的として、テレビ番組の取材を受ける

トピックス

IRフェア 9/26・27

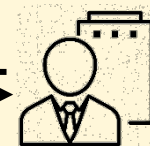


目的

個人投資家への
アプローチ強化

「日経・東証IRフェア2025」@東京ビッグサイト に初出展

- 約300名の個人投資家(大会場説明会を含む)との接点を構築
- 個人投資家の生の声を聴くことができ、**貴重な相互理解の場**となった

当社の理解度 **↑** エンゲージメント強化につなげる個人投資家の**情報ニーズ**を把握、今後のアプローチに生かす

テレビ番組の出演 8/23



※トラスコ中山株式会社の許諾を得て使用しております。無断転載・加工はご遠慮ください。

テレビ東京系列「知られざるガリバー～エクセレントカンパニーファイル～」で当社を特集

目的

当社の知名度向上
+
企業価値向上

- 優れた技術を持つ隠れた日本企業を紹介する同番組にて、当社の油清浄機「SJシリーズ」や水素製造装置「HyGeiaシリーズ」などを紹介いただく
- 当社の事業内容や成長戦略を広くPRする

➤ 個人投資家からの
認知度と企業価値の向上➤ 紹介された技術に関連する
お問い合わせの増加

人的資本戦略、モノづくり戦略の推進

- 人的資本戦略の推進
- モノづくり戦略の実践

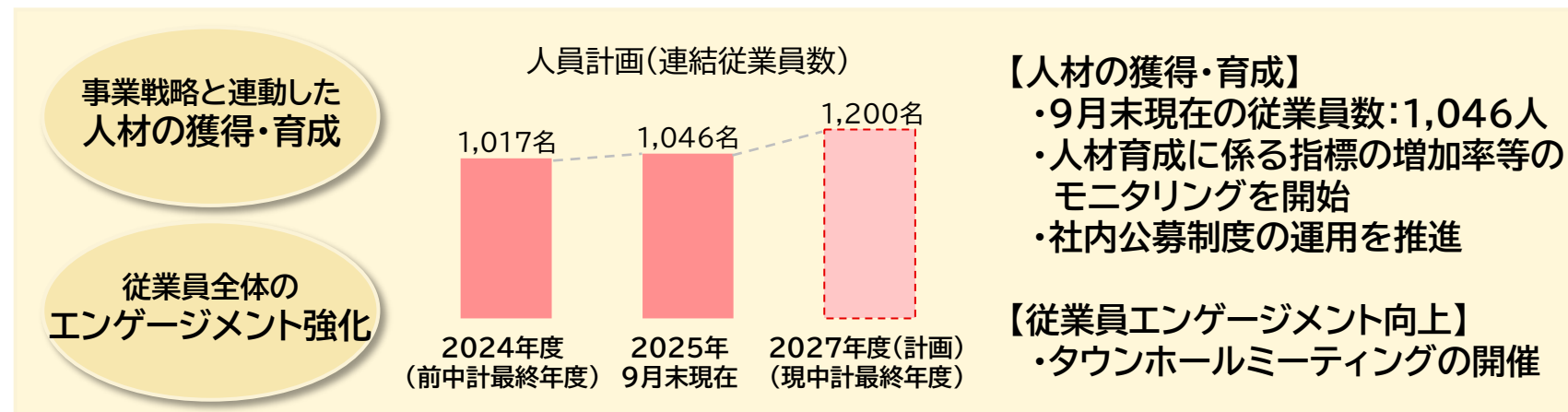
- 経営ビジョン・現中計の実現のため、GX人材の強化や技術承継、従業員エンゲージメントの強化を進める

トピックス

■ 人員計画の進捗



内容



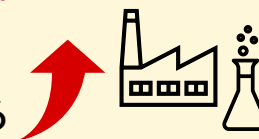
■ 本社・川崎製作所の再編



本社・川崎製作所を、当社モノづくりの拠点として再編

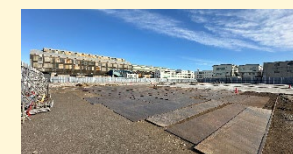
目的

製造・開発・サプライチェーンマネジメントの高度化・最適化
⇒当社グループのモノづくりの拠点として、GX事業の拡大を後押しする



【計画の進捗状況】

旧工場の撤去工事は順調に進捗



サステナビリティに関する取り組み

□ サステナビリティの推進

- 事業活動における取り組みを通じて、持続可能な社会の実現に貢献

トピックス

■ Scope3排出量の算定



内容

サプライチェーン排出量削減に向け、Scope3排出量を算定

目的

サプライチェーン
排出量の削減

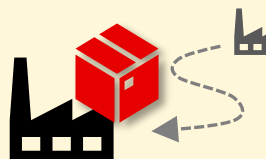
- 効果的な削減検討に向け、サプライチェーンにおける多排出領域を特定するため、Scope3排出量をカテゴリ別に算定
 - 統合報告書において、カテゴリ別に排出量を一部開示

■ サステナブル調達推進



サステナブル調達ガイドラインの実践

目的

持続可能な調達網
の実現

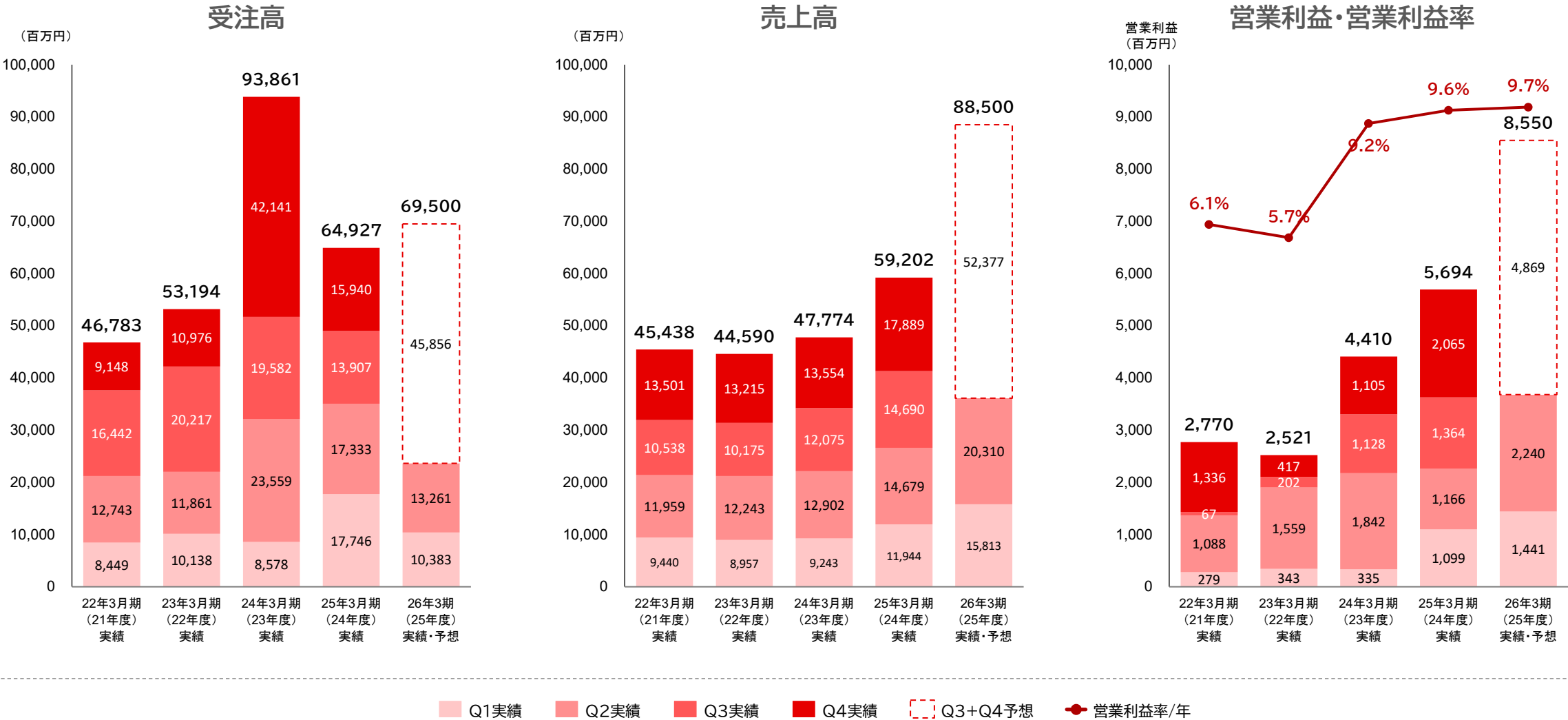
- 取引先への説明会を開催(左写真は説明会の様子)
 - 当社調達ガイドライン(2024年4月制定)の理解浸透を図る
- 取引先へのCSR調達アンケート(第1回)を実施: ESGリスクを把握
 - 今後は、評価結果のフィードバック、並びに個別フォローアップを検討
 - 第2回アンケート調査(2026年度の実施)を計画中、第2回調査においては、対象とするサプライヤー数の拡大を検討

Appendix 1. 過去の業績推移

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

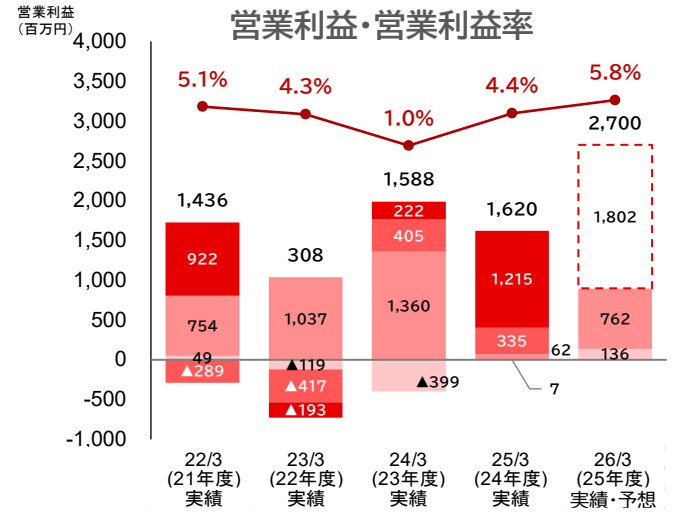
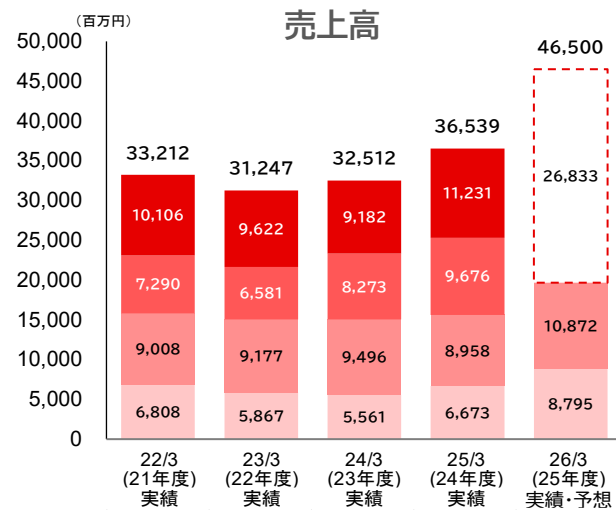
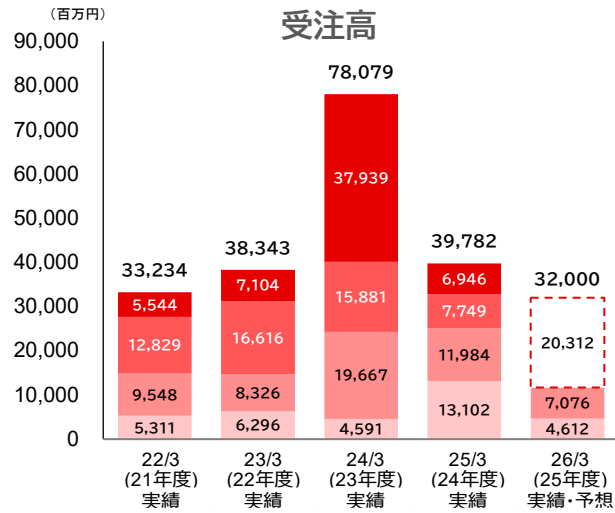
MKK

業績の推移

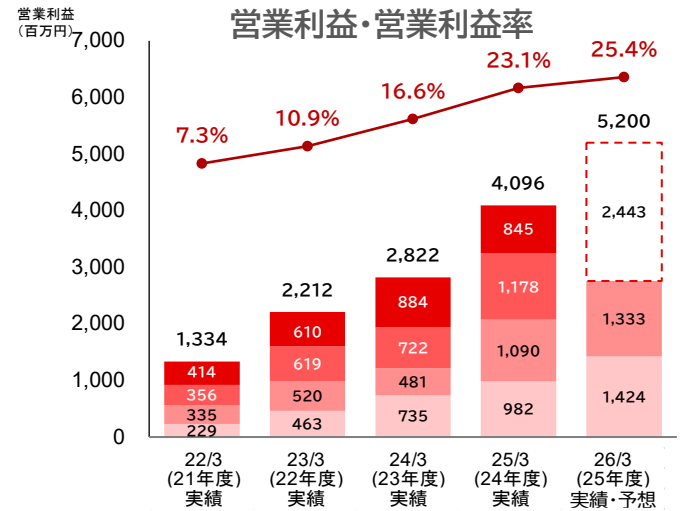
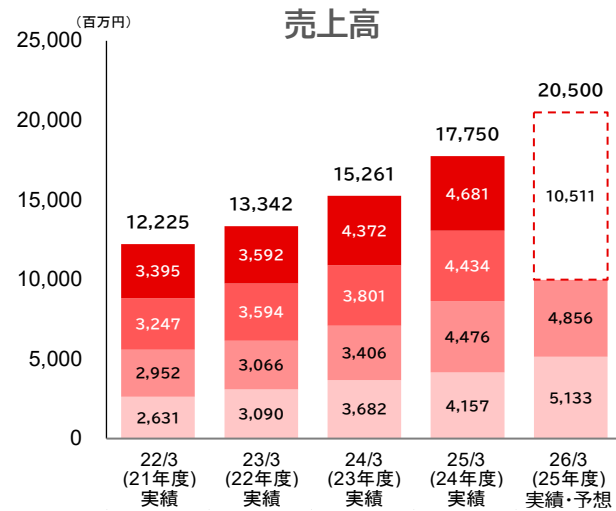
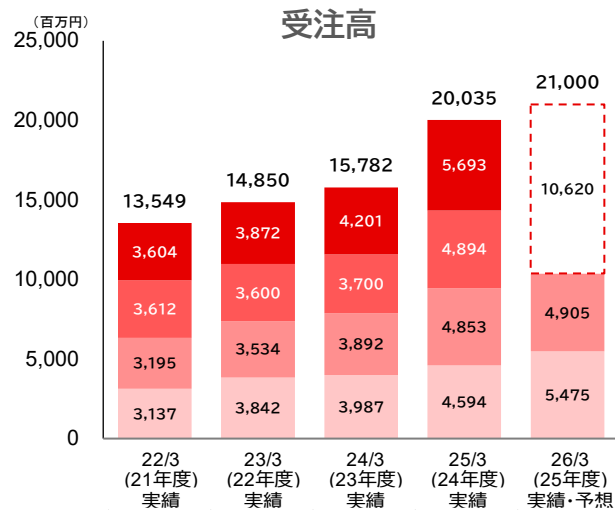


業績の推移(セグメント別)

エンジン・アラインゲ



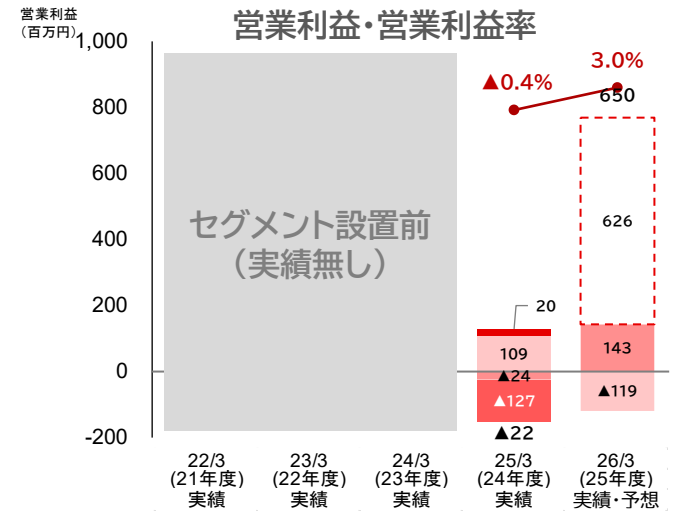
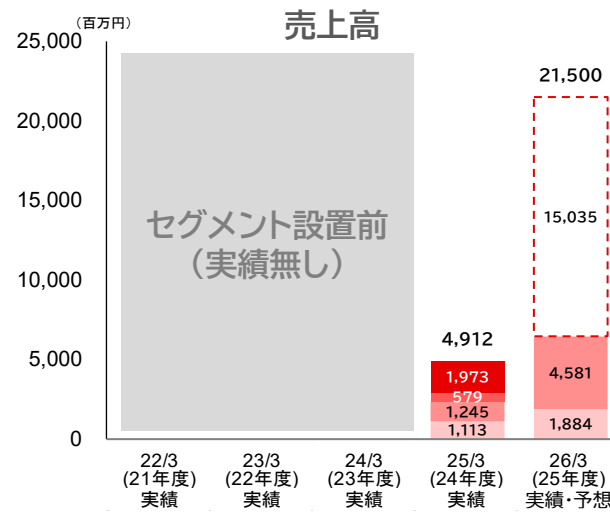
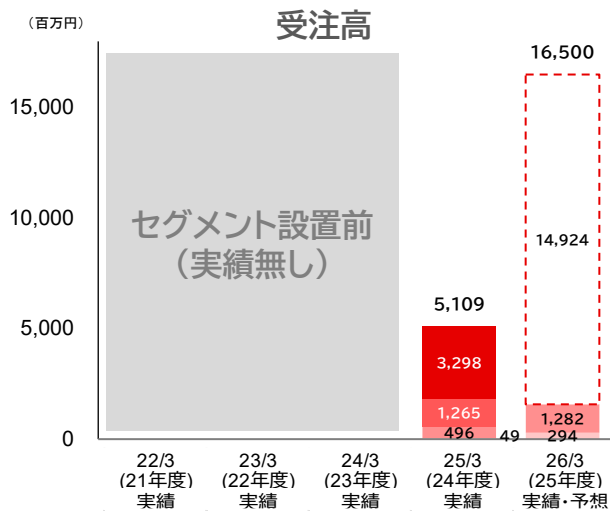
単体機械



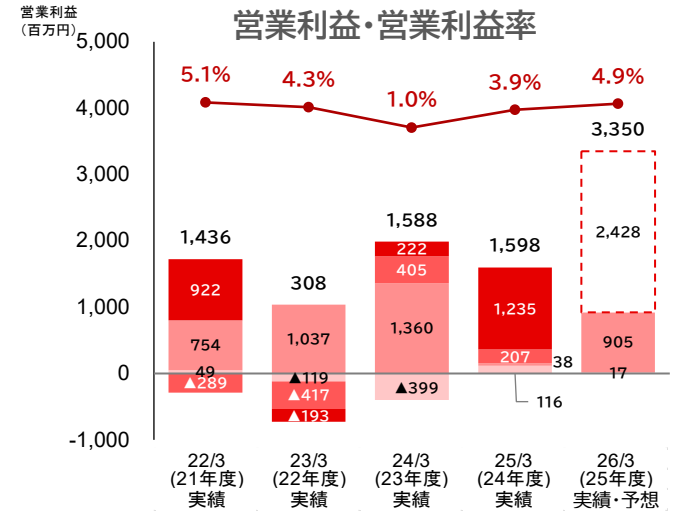
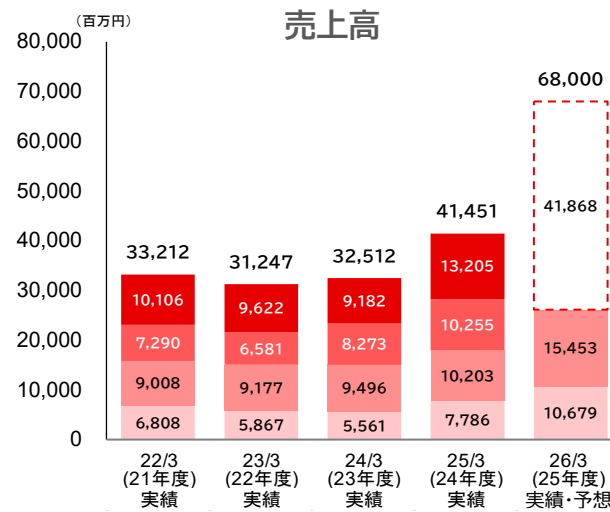
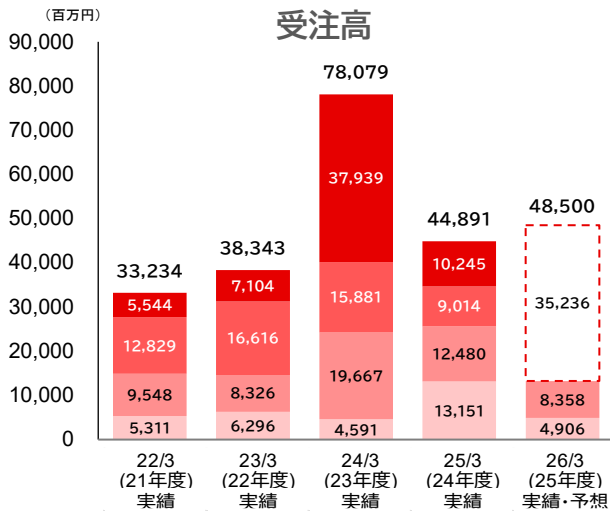
Q1実績 Q2実績 Q3実績 Q4実績 Q3+Q4予想 営業利益率/年

業績の推移(セグメント別)

GX



Hパイルコンベヤ+GX



Q1実績 Q2実績 Q3実績 Q4実績 Q3+Q4予想 営業利益率/年

Appendix 2. 会社概要

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK

会社概要（2025年9月30日現在）

商号	三菱化工機株式会社 (Mitsubishi Kakoki Kaisha, Ltd.)
代表取締役	代表取締役 社長執行役員 田中 利一
本社	本社： 神奈川県川崎市川崎区大川町2番1号
	本社事務所： 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館
設立	1949年9月（創立：1935年5月）
資本金	39億5,697万5千円
連結従業員数	1,046名
事業内容	各種プラント・環境設備および各種単体機械等の 設計、製作、据付、販売

上場区分	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	6331
業種区分	機械
発行可能 株式総数	48,000,000 株
発行済 株式数	23,741,850 株
単元株式数	100 株
大株主 (自己株除く)	① 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) ② 株式会社日本カストディ銀行(信託口) ③ 明治安田生命保険相互会社 ④ 三菱化工機取引先持株会 ⑤ BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC) ⑥ 三菱化工機従業員持株会 ⑦ 株式会社横浜銀行 ⑧ STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 50523 ⑨ MSIP CLIENT SECURITIES ⑩ 第一実業株式会社

事業所一覧（2025年9月30日現在）

国内拠点



本社	● 本社 ● 本社事務所	営業所	○ 営業所 (東北、横浜、名古屋、広島、九州、沖縄)
		工場	● 川崎製作所 ● 鹿島工場
支社・支店・事業所	○ 大阪支社 ○ 四日市事業所	海外事務所	● 台湾支店 ● マレーシア営業所 ● インドネシア駐在員事務所

海外拠点



グループ会社	連結子会社	● 三菱化工機アドバンス株式会社 ● 北九州工場 ● MKK東北株式会社(本社・秋田工場) ● いわき工場 ● MKK Asia Co., Ltd.(タイ) ● MKK EUROPE B.V. (オランダ)
	非連結子会社	● MKKビジネスプラス株式会社 ● 株式会社MKKi ● 菱化機械技術(上海)有限公司(中国)

事業系統図



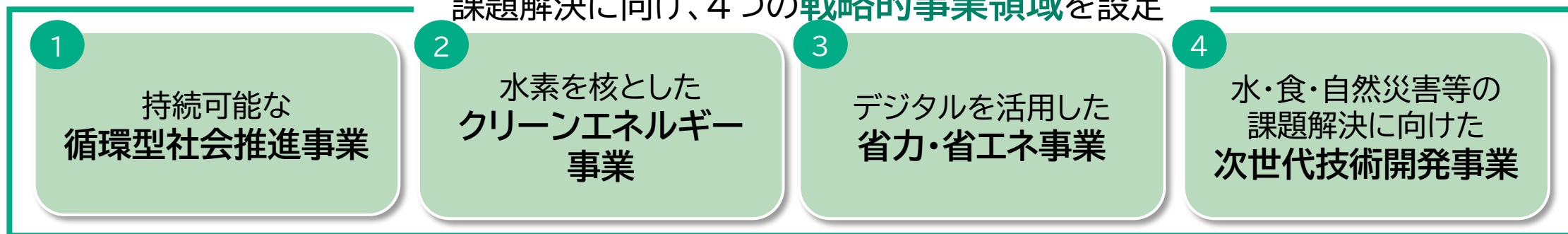
三菱化工機グループ2050経営ビジョン 策定の背景



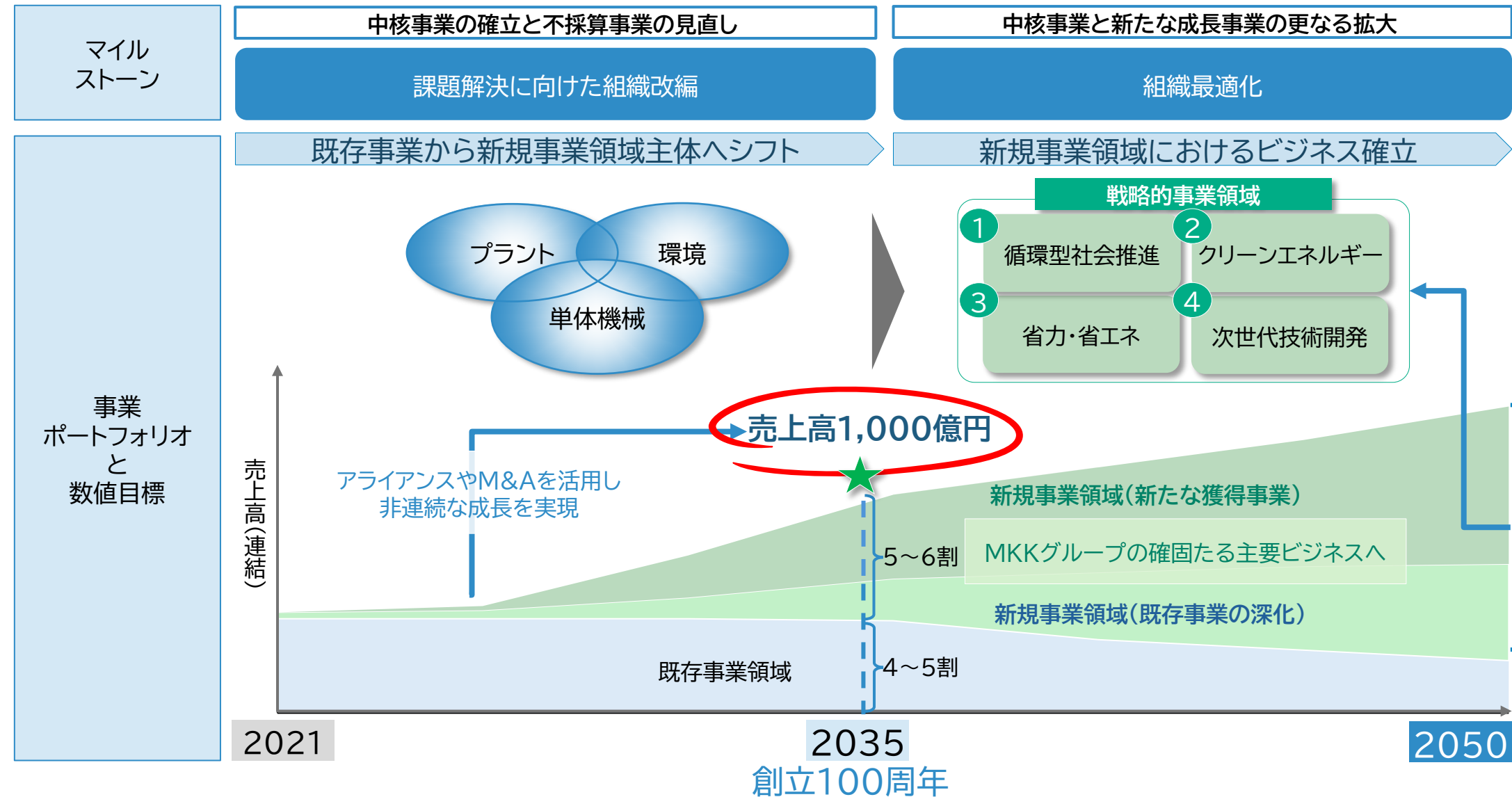
※1 洪水、異常気象、山崩れ・地滑り、干ばつ、山火事の発生件数合計

※2 65歳以上を高齢者と想定

当社のケイパビリティ

課題解決に向け、4つの**戦略的事業領域**を設定

事業ポートフォリオ改革と目指す収益構造



Appendix 3. 当社の強み・ビジネスモデル

MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society



事業概要

- ケミカル・電子材料関連プラント、水素・エネルギープラント、環境設備を設計・調達・建設する「エンジニアリング事業」
- コア技術である分離・ろ過技術を用いた遠心分離機、ろ過機など各種単体機械を製作する「単体機械事業」
- 経営ビジョンに掲げる「CO₂・気候変動」「資源循環」「水・食料」「労働力不足」「自然災害」の社会課題解決に貢献する「GX事業」

GX事業



- 水素サプライチェーン関連装置
- 水素ステーション
- GX用途向け水素製造装置
- 微細藻類培養技術
- GX関連プラント
- バイオガス利活用関連装置
- 汚泥熱可溶化装置
- SAF用遠心分離機
- iFactory®
- 電界フィルター®
- GX関連機械

開発中

- CO₂回収装置
- CO₂液化装置
- メタネーション
- 吸蔵合金水素圧縮機
- 水電解水素製造装置
- アンモニア分解

エンジニアリング事業

プラント



- 化学品プラント
- 電子材料(半導体)関連プラント
- ファインケミカルプラント
- 植物油プラント
- 食品・医薬品プラント

水素・エネルギー



- 水素製造装置
- LNG・都市ガス関連装置
- 石油精製関連装置

環境



- 下水処理設備
- 廃棄物処理設備
- 脱臭装置
- ごみ埋立地浸出水処理設備

単体機械事業

産業機械



- 遠心分離機
- ろ過機
- 攪拌機
- 海水取水用除塵設備

船用機械



- 油清浄機
- 船舶環境規制対応機器

循環型社会推進

クリーンエネルギー

省力・省エネ

次世代技術開発

新規技術開発、既存技術・製品の改良、用途の開発により、経営ビジョンに掲げる社会課題解決に貢献する戦略的事業領域に適合

GX事業の製品・サービス

- 直近で成長している水素需要へは、水素製造装置などの主力製品を投入して事業を拡大させる
- 今後の成長が見込まれる低炭素水素(ブルー・グリーン水素)やCO₂回収などカーボンリサイクルの領域へは、現中計期間中に市場投入するようにR&Dを推進していく

1 持続可能な循環型社会推進事業



メタネーション
(カーボンリサイクル・水素利活用)

開発中

CO₂液化装置
(カーボンリサイクル)

開発中

バイオガスからの水素製造
(バイオガス利活用)

3 デジタルを活用した省力・省エネ事業



2 水素を核としたクリーンエネルギー事業



水素ステーション

水素吸蔵合金配送システム

開発中

吸蔵合金水素圧縮機
(水素吸蔵合金)

開発中

アンモニア分解
(水素利活用)

開発中

水電解水素製造装置
(グリーン水素)

開発中

4 水・食・自然災害等の課題解決に向けた次世代技術開発事業



トップシェア製品・コア技術の歩み

- 日本の化学工業の発展と共に、国内外の新技术と当社が培ったノウハウを組み合わせることで、環境分野をはじめ、エネルギー、船用・産業機械分野などで、その時代の社会課題・ニーズに対応

			1930～40年代	1950～60年代	1970～80年代	1990～2000年代	2010年代～
			海外技術の 国産化要請に対応	急増した消費需要に 伴う設備需要に対応	環境汚染防止ニーズに対応 しつつ海外市場開拓を推進	クリーンエネルギー 関連設備への対応	技術・製品開発を通じて持続 可能な社会の実現に貢献
エンジニアリング	プラント	ケミカルプラント建設					
		海外プラント建設					
	水素・ エネルギー	水素製造装置				トップシェアを確立	
		LNG関連設備					
	環境	下水処理設備					
		産業排水処理設備					
		大気汚染対策技術					
単体機械	産業機械	ろ過装置					
		遠心分離装置					
		除塵装置・攪拌機					
	船用機械	船舶環境規制対応機器					
		油清浄機				トップシェアを確立	

オンサイト水素製造装置HyGeia(ハイジェイア)シリーズ

$\text{CH}_4 + 2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 4\text{H}_2 + \text{CO}_2$

原料ガス (メタンなど) → 分離(ガス改質) → 水素

HyGeia

三菱油清浄機 三菱セルフジェクター(SJ)

原液(油) → 作動水 → 分離 → 清浄油, 水, 不純物

SJ

実績の積み重ねにより、コア技術（固体・液体・気体の分離）を形成・高度化

ビジネスモデル① エンジニアリング

三菱化工機グループ

エンジニアリング

フィジビリティ・スタディ

提案

引合

見積

受注

設計

機器製作、資材調達

建設

試運転、引渡

運用、保守



▶ ケミカルプラント建設



▶ 水素製造装置



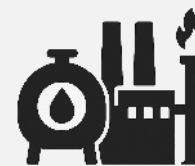
▶ バイオガスシステム

その他、

- 水素製造プラント
- LNG関連設備
- 電子材料(半導体)関連プラント、
- 下水処理設備
- 廃棄物処理設備

など

主な納入先



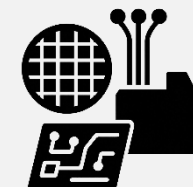
エネルギー会社



化学会社



食品会社



半導体メーカー



下水処理場

ビジネスモデル② 単体機械

三菱化工機グループ

単体機械

製品開発

提案

引合

見積

受注

設計

資材調達

製造

検査、出荷、納入

保守



▶ 船用機械



▶ 産業機械



自社工場(本社・川崎製作所)

その他、

- 油清浄機
- 遠心分離機
- ろ過機
- 除塵機
- 船舶環境規制対応機器

など

主な納入先



造船所



化学会社



食品会社



医薬会社



非鉄金属会社

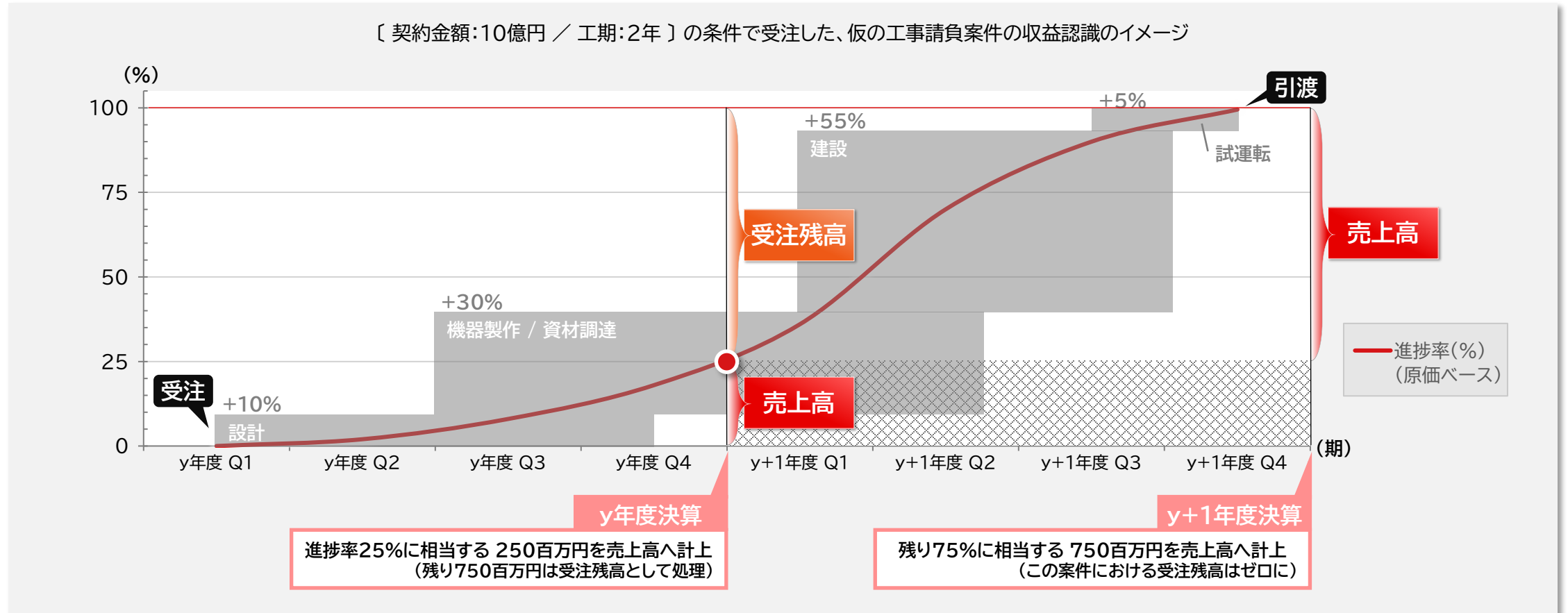


エネルギー会社

収益及び費用の計上基準について(工事進行基準)

- エンジニアリングに係る工事契約の多くは、進捗度に応じて収益を認識(下図のイメージ)
- 各種単体機械の製品販売の多くは、製品の引渡時点で収益を認識

■ 工事案件における収益認識のイメージ(工事進行基準)



IR資料のご紹介

- 最新のIR情報等は、当社ウェブサイトにてご確認ください

三菱化工機グループ 統合報告書



URL: <https://www.kakoki.co.jp/ir/library/integrated-report/>

決算説明会 プレゼンテーション資料



URL: <https://www.kakoki.co.jp/ir/library/materials/>

三菱化工機グループ2050経営ビジョン



URL: <https://www.kakoki.co.jp/ir/vision.html>

中期経営計画



URL: <https://www.kakoki.co.jp/ir/midterm-plan.html>

メモ

本日はありがとうございました

IRに関するお問い合わせ先

三菱化工機株式会社 企画部

.....
お問い合わせ: ir_team@kakoki.co.jp

本資料に関する注意事項

本資料に掲載の企業、団体等の名称については、敬称を略して掲載しております。

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。
本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。
また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。
また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。



MORE Sustainable, KEEP Innovating for a KINDHEARTED Society

MKK